

平成29年度
泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略
効果検証・評価報告書

平成30年12月
泉崎村地域創生・人口減少対策委員会

1 本村総合戦略の効果検証、評価の概要と総括

泉崎村地域創生・人口減少対策委員会（以下、「委員会」という。）は、泉崎村人口ビジョン及び総合戦略（泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略）の策定及び効果検証、評価等のために、平成27年11月、住民代表を含めた産官学金労言等の有識者で構成、設置されました。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標達成には、第5次泉崎村総合計画と同様、PDCAサイクルを確立し、本戦略に定める具体的な施策を重要業績評価指標（KPI）に基づき効果を検証し、評価することが重要となります。

このため委員会では、本村総合戦略に掲げる具体的な施策並びに国の地方創生交付金等を活用したKPIの実績及び進捗状況、必要性及び有効性、今後の取組内容や方針等を総合的に審査し、評価として認定しました。

つきましては、昨年度同様、委員会の報告を尊重していただくとともに、総合戦略に位置付ける「重点施策」については、限りある財源の中でも優先的に取り組み、機動的な検証・改善を図るなど施策の効果を最大限に発揮され、人口減少・少子高齢化の抑制、地域経済の好循環と活性化、持続可能なまちづくりを推進してください。

泉崎村地域創生・人口減少対策委員会

PDCAサイクル：Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り組み、プロセスを不断のサイクルとして、継続的な改善を推進する経営管理システムのこと。

重要業績評価指標（KPI）：Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

2 平成30年度 泉崎村地域創生・人口減少対策委員会 委員名簿

| No. | 分野 | 所属 | 役職 | 氏名 |
|-----|----|--------------------|--------------|-------|
| 1 | 産 | 秋山錠剤 株式会社 | 福島工場長 | 小林利安 |
| 2 | 産 | 株式会社 朝日ラバー | 管理本部業務グループ部長 | 堀信幸 |
| 3 | 官 | 泉崎村国民健康保険運営協議会 | 会長 | 小林勝衛 |
| 4 | 学 | 福島県農業総合センター農業短期大学校 | 研修部長 | 宗方宏之 |
| 5 | 学 | 泉崎村教育員会 | 教育長職務代理者 | 山田睦子 |
| 6 | 金 | 株式会社 東邦銀行 | 白河支店 支店長 | 澤田誓 |
| 7 | 金 | 夢みなみ農業協同組合 | 泉崎支店長 | 瀬尾英三 |
| 8 | 労 | 認定農業者会 | 会長 | 安藤政則 |
| 9 | 言 | 福島民報社 | 白河支社長 | 古川雄二 |
| 10 | 言 | 福島民友新聞社 | 白河支社長 | 飯沢賢一 |
| 11 | 住 | 泉崎村婦人団体連絡協議会 | 泉崎村赤十字奉仕団会長 | 三村成子 |
| 12 | 住 | 泉崎村商工会 | 会長 | 菊地幸次 |
| 13 | 住 | 泉崎村民生児童委員協議会 | 会長 | 長久保重行 |
| 14 | 住 | 泉崎村消防団 | 団長 | 小林成吉 |

3 効果検証、評価を行った施策及び事業

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる具体的な施策及び国の地方創生交付金活用事業

※国の地方創生交付金活用事業

- ・泉崎村魅力発見発信事業（地方創生加速化交付金）
- ・泉崎村の魅力ある農業と未来に向けた農業拠点整備プロジェクト（地方創生拠点整備交付金）
- ・産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業（地方創生推進交付金）

4 評価の区分

具体的な施策及び事業の評価は、下表に示す5区分によるものとし、意見や提案を付すものとします。

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

5 効果検証、評価の手順

- (1) 事業担当課が平成29年度の目標値に対する達成率等による基本評価を実施。また、基本評価を踏まえ、取組内容、実績、分析及び今後の方向（平成30年度事業内容等）を記載した「進捗管理シート」を作成。
- (2) 委員会において、施策や事業内容と平成30年度の進捗状況等の説明を実施。また、作成された「進捗管理シート」をもとに各委員が審査を実施。
- (3) 最後に、委員会として各施策等の評価を認定。

6 評価等の結果

- (1) 総合戦略に掲げる具体的な施策の評価（詳細は資料1及び資料2）
- (2) 国の地方創生交付金活用事業の評価（詳細は資料3、資料4及び資料5）

7 今回の効果検証、評価と今後の総合戦略の推進について

(1) 効果検証及び評価の平準化及び指標の適正化

今回の各施策の効果検証及び評価については、多種多様な意見及び提案がなされ、より総合的な評価になったと考えます。

しかしながら、一部の施策については、取組内容が不明瞭な面も見受けられたことから、今後は、具体的かつ簡潔明瞭な進捗管理シートの作成に努めていただきたいと思います。

また、各施策の指標については、村単独での集計が困難なもの、単年度評価に似つかわしくないものなどがあることから、指標の適正化及び評価基準を考慮することが必要であると考えます。

(2) 縦割り行政の打破と政策のパッケージ化の推進

今回の評価した各施策は平成29年度の取組実績及び対応等に基づくものであり、総合戦略開始から3年目、5か年計画の中間年度であります。この中間年度の評価を再度精査、分析することが、残り期間で成すべきことが見えてくると思われます。

最終的な目標は、人口減少の抑制と少子高齢化社会に対応した地域経済の好循環と持続可能なまちづくりの構築であることから、さらなる各部局間の所管や垣根を越えた事業の連携と協力、政策の包括的な推進を図り、平成30年度及び31年度の総合戦略の総仕上げに向けた取組や展開が必要と考えます。

(3) 総合戦略全体としてのPDCAサイクルの構築

概ね順調に進みつつある総合戦略ですが、最終目標である泉崎村の人口減少の抑制や、まち・ひと・しごとの5つの基本目標ごとに個別施策が適切な効果を上げているか否かを検証する機会を設けてはどうかと考えます。